



おかやま連町だより

題字 兼松久和

第3号

発行 岡山市連合町内会 発行日 平成13年3月



変貌する駅西口とフォーラムシティビル
(愛称ママカリフォーラム岡山)

二十一世紀は

住民自治の時代

岡山市連合町内会
会長 兼松久和

春風も日々暖かさを増し、桜花酒宴を楽しむ日も間近となりました。

町内会長の皆様におかれましては、地域住民の生活安全、福祉の向上のため、粉骨碎身のご奉仕を賜り敬意を表しますとともに深く感謝申し上げます。

さて、私達にとりましては遠い未来と感じていました二十一世紀が現実

に到来しました。この間社会は大きく変貌し、私達町内会組織も時代の要請に応えながら常に発展と充実に努めて参りました。

でも大きな変革を促すものであります。地方分権の根幹は、国と地方

の役割分担を明確にし、地方公共団体の自主性・自立性を高め、個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現しようとするものであります。地方自治のあり方について、内閣総理大臣の諮問機関である「地方制度調査会」の答申の前文に「また、本格的な地方分権時代において、一略一真の地方自治は、住民の意志と責任に基づいて、主体的に形成されるべきである」という基本認識のもと、住民自治の更なる充実がまさに求められている。」と述べられています。

住民の意志決定としての住民投票の一般的な制度化には至らなかったが、ただ市町村合併については、その問題の重要性及び地域性から、議会の議決に優先して、住民投票の導入の制度化を明確にしています。

私は、常に地方自治の究極の原点は住民自治であり、住民自治の基盤は町内会等自治組織を置いて他にないことを信念とし、行政等関係方面に公言して参りました。地方分権改革の姿は、まだはっきりした形では

見えて来ませんが、時代が私達を要請していることは確かです。

岡山市は千五百余の単位町内会が全市域を網羅し、学区・地区連合町内会・市連合町内会組織により強固な基盤を形成しています。今後多様化・複雑化する行政需要に対し、地域あるいは全市民的に住民の意志決定を反映するため、私達は一層重要な役割を担わなければなりません。

地縁団体である町内会の歴史は古く、その変遷においては隷屬的、被支配的、下請的な組織であった時代もありました。現在でも地域によっては、コミュニケーションレベルでの取り組みのみに甘んじている面もあります。私達住民自治組織は地方自治推進の基盤であるという共通認識を新たに新世紀を歩み始めようではありませんか。

次にこれからの情勢を踏まえた連合町内会の活動の一部を紹介したいと思います。

(一) 萩原市長との懇談会

地域住民の声を知ってもらうために、町内会長との対話を積極的に行うこと。連合町内会設立四〇周年記念大会への支援、全国自治会連合会岡山大会の誘致及び支援を要請。

(二) 片山総務大臣との懇談会

全国自治会連合会役員との定期的懇談、総務大臣感謝状表彰の拡大等を要望。

(三) 石井県知事との懇談会

住民自治組織と行政とのパイプとしての、岡山県自治会連合会組織の拡大・充実についての支援。全国自治会連合会岡山大会での全県的取り組みと財政支援を要望。

(四) 岡山市連合町内会組織の改編と財源運用の

見直し

組織の活性化及び財源の弾力的運用を図るため、役員選出方法の改正を行った。又、常任理事会・役員会等会議出席者に対する費用弁償額及び学区・地区連合町内会補助金の見直しについて検討を行った。



平成19年1月22日片山総務大臣訪問

(左) 全国自治会連合会相川会長

(右) 兼松副会長 (総務省大臣室)

(五) 市外及び県外の自治会組織との交流

早島町、倉敷市児島、山陽町、佐伯町、英田町、勝央町、美作町、金光町の自治会連合組織及び松江市、鳴門市、高知市等中四国の主要都市の町内会連合会、愛媛県自治会連合会を訪問し、意見交換、情報交換を行ない交流を深めた。

心の革命

岡山市連合町内会
副会長 梶原昌一

新しい世紀となりました。二十一世紀は心の時代とも云われていきます。豊かな心の時代となるでしょうか。ならなくてはいけないと思います。それには、私達大人が豊かな心を持つことは勿論ですが、二十一世紀の主役である青少年の健全な育成にあります。家庭はもちろん、学校、地域が今迄以上に積極的に行動を起こすことにあります。

特に地域に根をはっている住民自治の町内会の活動に明確に入れ、行動を起こすべきと思います。

昨年は相次ぐ青少年事件がありました。事件の真相、動機が解明されて行く中で子ども達の教育のあり方を考えさせられます。いつの時代でも父親・母親の子育てでの役目は変わりません。そして我が子に対する愛情は格別なものであると思います。家庭のぬくもり、家族の絆を大切にしてい、しつけや生活習慣、そして社会でのマナーやモラルは厳しく家庭の中で教えているものであります。

私は、昨年東京都が「心の東京革命」と銘打って、心の東京革命行動プランを策定したことを知りました。その中で心の東京ルール七つの呼びかけを紹介します。

- 一、毎日きちんと「あいさつ」させよう
- 二、他人の子どもでも「叱ろう」

学区の動き

神にも多く出荷
されている。

自然に恵まれた

我が故郷

牧石学区連合町内会
会長 太田益夫

毎年、四月末に行われるコミュニティ祭りでは、このよ
うな特産品を格安で販売し、
地域の皆様から喜ばれて
いる。

出品は、各町内会長を通じ
てお願いし、無償又は原価で
提供を受け、極力安くバザー
で販売している。

次に、この地は、古代の山
陽道が通っており、多くの史
跡が散在し、これ等について
は、先に手づくりマップで纏
めたが、注目すべきは牟佐大
塚古墳であり、その巨大な石
室は、強大な勢力を持った豪
族が存在し、早くから開けて
いたことを示している。

また、当地方は、岡山藩主
とも関係が深く、往来があっ
たことが残されている。

第一は、戦国時代、金山寺
が焼失し、その再建に、当時
の藩主宇喜多直家が援助する
と共に、備前、美作、備中東

部の寺社を統括、再興させた。
第二は、中原地区の藩主御
涼み所である。これは川の中
州の小高い丘にあり、池田光
政公に特に寵愛されたが、以
後歴代藩主も御涼みと野遊び
の場として利用している。

第三は、牟佐の狩場である。
周辺の山には、鹿、猪等、多
くの獣がおり、備前藩では、
冬になるとよく牟佐に来て狩
りを楽しんだ。特に池田光政
公は狩りを好み、二十数回も
訪れた記録が残っている。

以上の如く、多くの自然に
恵まれた当地域は、愛情を持
って伝えていく必要がある。

宇野学区の今昔

宇野学区連合町内会
会長 長江勲次郎

宇野学区は、昭和6年4月
1日に、三幡と共に岡山市に
編入。

当時、戸数六百・人口二千
七百九十四人。純農村地帯で、

岡山市民の野菜供給地域と自
負。しかし「嫁に行くな浜川
原」という諷刺言葉(三毛作)
が有名。編入後も変化は微々
たるものであった。特記すべ
きは、原尾島に岡山競馬場が
昭和8年に開場、二十年間も
開催された。戦後22年には戸
数七百九十四・人口四千三百

二十三人と記録が残ってい
る。星移って31年経済白書は
「もはや戦後でない」と宣言。
テレビは瞬く間に各戸に普
及。「国民総白痴化」の言葉

と同時に社会構造は近代的な
兆しが見え始め、学区内を過
ぐる国道二号線が分岐し三門

一原尾島が開通し、交通体系
は一変し、都市近郊にすぎな
かった学区に続々と近代産業

が進出し、会社や社宅、マン
ションなどの高層建築が建ち
並び、住宅団地も造成された。
最近では岡北大橋が開通し

た。万成一国富線のインパク
トは凄く、大型商業施設も建
ち並び。一方、数少ない農家

三、子どもに「手伝い」を

させよう

四、ねだる子どもに「がまん」

をさせよう

五、先人や目上の「人を敬う」

心を育てよう

六、体験の中で子どもを「き

たえ」よう

七、子どもにその日のことを

「話」させよう

石原慎太郎知事はプランの
序文で、「いかにわかりき
ったことを書いているかも知
れないが、わかりきったこと
をしていないことが現在の危
機だ」と述べています。

どうでしょうか。町内会の中
で心の革命を住民の皆様
に提唱しながら、心の豊かな二
十一世紀を私達大人の責任で
行動しようではありませんか。

折しも成人式にて新成人の
行動が報じられています。考
えさせられます。

二十一世紀の初頭にあたり、
皆様と共に冷静に青少年
の健やかな成長を願って考え
てみようではありませんか。

四季を通じて豊富な水を
湛え、周辺部を流れる旭川、
後方に金山、笠井山を控え、
前に竜の口山を仰ぐ牧石地区
は山紫水明にして、最も敏感
に、自然を感じさせてくれる
地域と確信し、愛すると共に
誇りに思っている処である。

また、旭川により造成され
た流域の肥沃な土地は、豊か
な水に支えられ、上質な野菜
や、果物の名産地として、市
民の台所を潤している。

一方、金山、畑鮎の高地で
は、温度差を生かし、高原野
菜や、花卉類の栽培が盛んに
行われている。

特に、色鮮やかに咲く花卉
類は、切り花としても寿命が
長く、市場でも好評で、京阪

も大根、ナス、ネギ、ホウレンソウなど消費者の嗜好に合うビニール栽培も普及している。また、岡山市内でも数少ない文教地区で、操山高校、就実女子大学、盲学校、健康医療技術、西日本調理師などの学校もある。

現在、宇野学区は世帯数七千五百三十九・人口一万七千人弱。乳児生誕二百五十、活気のある若い者の町、六十五歳以上二千三百三十人。八歳以上五百二十六人。

宇野小学校は51年4月児童数千三百三十名。中島、八幡など分離し、旭竜小学校が誕生したが、宇野小学校はマンモス校の一つである。

昔から小学校は、何と云っても地域の中心的存在。学区連合町内会の事務局が小学校にあります。肝胆相照らす仲、学校開放事業、IT講習など学校施設と地域住民の關係が一層深くなっている。

とは言っても、学区内にはコミュニティハウスもなければ公民館もない。一日も早く整備あらんことを祈る。

を知る貴重な資料を残そう」と、当時の政田小学校PTAらが地区民に呼びかけて収集したものである。

政田民俗資料館の充実・活用について

政田学区・光政地区

連合町内会

会長 小川政男

政田学区は、岡山市南東部の児島湾沿いに位置し、西は操南学区・東は開成学区・北は芥子山学区に接し、豊かな田園風景が広がる農村地帯である。今を去る約三百年前藩主池田光政が津田永忠に命じて児島湾の一部を干拓して出来た土地である。

平成8年政田コミュニティ

ハウスが建設された時、地区民が収集した民俗資料を展示できる資料館が併設された。

資料の収集は昭和44年に始まった。農機具の機械化など技術の進歩によって、それまで使っていた道具類が処分されようとしていたところであった。「沖新田三百年の歴史

現在当館に

収蔵されている資料は、約千二百点、この地域で古くから使用されていた農具・漁具・生活用具・祝祭具・大工道具・織機など広範囲にわたっている。

展示室は広さ七十三平方メートル・収蔵庫七十七平方メートル・当館は、全国でも稀な干拓地特有の先人の苦勞が忍ばれるすりへった農具や手造り用具など展示されている。干拓地では、井戸水が使えない

いことから、飲み水用に川の水を濾過するための素焼きのかめ、堀田の泥上げに使用した「はこじょれん」などがある。

岡山市では始めての民俗資料館で、また先輩たちの収集した貴重な資料であるので、

大切に保存すると共に市民の皆さんに観賞してもらえよう努力している。

次に、地域を活性化する目的で、岡山市が支援する「おかやま街いきいき活動支援事業」に応募し、採択されたので、小学生とともに「政田を知ろうふるさとマップ」を製作している。

〔問い合わせ先〕

政田資料館

政田小学校南隣

Tel (〇八六) 九四八一二九四八

新生芳泉の歩み

芳泉学区連合町内会

会長 近藤 正和

私共の街芳泉学区は、今より23年前に誕生致しました。

新進気鋭の学区です。

30年程前に美しい田園の中に岡山県立芳泉高等学校が開校し、文教の狼煙が挙がり四、五年後に小学校続いて中学校、幼稚園と相次いで開校、開園をいたしました。現在公



民館もオープン致し文教地区の姿が整い学区が誇りうる施設であると思っております。

誕生時、住民構成は旧福浜学区より四町内会、旧芳田学区より、四町内会、合わせて八町内会で学区を形成致しました。人口は現在より若干少ないと思えます。どうして芳泉学区が好まれるのか私共は嬉しい悲鳴ですし、受け入れる自治会組織も責任の重大さを感じ、寛大なる気持ちで組織の一員として迎え入れているところです。学区内の活動の多くは町内会組織を基盤としており、組織加入率は九〇%位と思えます。町内会長会議にて住民の声、要望等処理しています。

学区は二つの学区よりの分離統合という寄せ集めの学区故、分離前より慣習の違い有り、今一つは心の底にある感情の行き違いありで、思うに任せぬ事が多々あります。それらは寄せ集めの感ならはですが、学区誕生以来二十

数年が経過しました今日では一体化しつつあります。学区将来像が論じられる迄になり

ました。これからも続くであろう人口増に対応するにはどうあるべきか真剣に議論を戦わしているところです。難点はそれぞれの組織が活発に活動しているのに連絡協調が十二分に行われていないという事です。会長会が司令塔の役割を演じきれない面があります。早期に解決すべき問題であると思っております。学区住民の幸せのために大切な事です。

今一つは、行政サイドよりの連絡・相談が学区に周知されないという事で、行政に猛省を促す所です。前進の為、住人の為、是非必要と思う。学区民に関わりのある機関、組織は力強く学区民の幸を念じて活動を展開しています。今日学区誕生以来の歩みをまとめてみました。会長会は十年、二十年先を見越した活動をすべきであると思いま

す。これからも頑張りまします。で、何卒ご指導とご鞭撻をよろしく願います。

妹尾地域の今昔

妹尾学区連合町内会

会長 原田潤作

妹尾学区は、岡山市の西南に位置し、町の中心部に日蓮宗の寺院「啓運山盛隆寺」があります。建立は、慶長十一年（一六〇六年）妹尾知行所旗本戸川氏の二代目戸川達安公の息女が、他家に嫁いで間もなく早世したので、公の奥方が非常に悲しみ、その霊を慰めようとの悲願により、当時真言宗の寺であったのを、公が信仰していた日蓮宗に改宗を命じ、村民ごぞつて姫の冥福を祈るよう厳命され、それによって寺も檀家も改宗したのが「妹尾千軒皆法華」の所以です。以来三百九十余年である。現在の建物は、天明二年（一七八二年）に大改築され、当時茅葺屋根であったのを、天保十一年（一八



四〇年）に本葺きに葺き替えたと記録されています。この寺院の二大行事として、今日まで伝えられて来たのが、8月7日の七夕祭り、当地では七日日市と言われ子ども達の健康と幸を願う寺院内外に、大七夕を飾り多数の屋台が並び、盆おどり等夏の

が時ならぬ花を咲かせた故事になぞられたものです。現在は地内総ての団体の代表により、妹尾地域まちづくり推進協議会を結成し、広く皆さんの意見を聞き、アイディアを出しあい協力して活動している地域最大のイベントは、「妹尾ふるさとさくら祭り」です。

風物詩として、広く近隣の地区からも親しまれ、多くの参拝があります。もう一つが「おえしき会式」で、宗祖日蓮大聖人の命日の法要です。毎年11月22日には、地域をあげて万灯行列で供養しています。この万灯とは、日蓮聖人が入滅された時、桜の木

今年で十回目を迎えます。会場は全長三百メートルの桜並木妹尾緑道公園「芳塘園」と、公民館周辺の公園に妹尾幼稚園の運動場です。実行委員である三十余の団体のテント村には、それぞれ趣向を凝らした手づくりの売店と中学校のブラスバンド、太鼓の演奏に歌あり、踊りありで、毎年一万人近い老若男女の参加をい

ただき、地域交流、触れあいの場として、大いに喜ばれています。

二十一世紀は、地方の時代と言われております。妹尾地域の特性を生かし、各界皆さんの英知を結集し、地域発展と活性化に取り組んでまいりたいと考えています。

歴史と文化に

彩られる街

一宮地区

中山学区連合町内会

会長 黒住小弥太

中山中学校区は、岡山市の西北部に位置しており、吉備

の中山の山麓に鎮座する吉備津彦神社の門前町として開かれた地区と、日本一の味覚を誇る清水白桃の産地を擁する馬屋下学区、また、隣接地として同じ果樹を産し、マンモス芳賀佐山団地を擁する桃ヶ丘学区、笹ヶ瀬川を境界として昨今近代化の波が押し寄せられている平津学区とで構成されており、昭和46年合併時には、三千百世帯一万一千八百五十一人、平成12年12月末七千四百六十二世帯二万二千人と倍増し、市中心部ドーナツ現象化の波をもろに受けており、この波は大きく様々な形を持って押し寄せて居り、問題解決のため、各種団体組織を通じて活性化事業に取り組んでいます。

主たるものとして

一、「備前一宮桃太郎フェスティバル」平成4年に全国一宮フェスティバルを当市一宮に於いて開催したのを契機に翌5年より続行中であり、本年度八回目を迎えました。祭りの中心は何と云っても特産の

清水白桃の即売で、清水白桃の適期に合わすように例年7月末か8月始めに開催されています。各町内会、事業所の手作りの出店等があり、市内外より毎年二万人位の人出で盛り上がり、本年からは地域に開かれた学校教育といふことでの中学生による出店もあり活性化に色彩りをそえました。

二、各小学校区毎に開催されている学区体育大会は、昭和60年から数えて本年度第十六回目です。学区の体育協会、連合町内会を中心に各種団体等学区民あがての運動会で、学区民の友愛と健康を

念じて開催しており、最近はプログラムの企画に中学生も参加し、開かれた学校教育が地域にとけこもうとしている一頁であり、大会を盛り上げています。

その他、一宮町内会が毎年

吉備津彦神社境内で開催しているどんど焼きの行事です。地域内、市内外からも多く参加し、また、保育園、幼稚園、小学校、中学校からも地域の伝統を学ぶということで、課外学習の一貫で参加しています。神事の後、餅をついてぜんざい、きな粉餅をふるまい、一年間の無病息災を祈り友愛を深めています。

また、一方では町内会の花いっぱい運動の一貫でもある花しょうぶ祭を6月上、中旬頃一週間開催しています。これは吉備路観光客の旅情をなぐさめる目的で、内容としては冷やしうどん、野菜の即売、スピードくじ、写生大会、短歌の募集等があり祭りを彩っています。

最近の動きとして、地域に開かれた学校教育で地域の伝統を地域の人々と一緒に学ぶ動きが出ています。中山小学校の休日におけるタコ揚げ教室、ふれあい花壇教室、馬屋下小学校の田植行事を親子で体験、桃ヶ丘小学校のお飾

桃太郎フェスティバル

域活性化推進委員会 *** びぜん一宮桃太郎フェスティバル実行委員会



り作り、一年通じての菊づくりに教室等、山中中学校の商店、事業所等の体験学習、神社仏閣の清掃等、地域に学びとけ込もうとする意気込みは近年の一服の清涼剤です。また、平津学区に於ける介護保険の一助として愛育委員、有志等によるヘルパー、二、三級を確保して認定外の高齢者の自立の一助となるよう動きが出てこようとしています。

連合町内会は住民のニーズを把握し、各種団体等と連絡調整を密にし様々な動きに可能な限り支援できるように努力して行きたいと思っております。

お知らせ



*平成13年度岡山市連合町内会定期総会を、平成13年6月1日(金)午前10時から、メルパルク岡山において開催の予定です。でお知らせいたします。

岡山市連合町内会の動き

岡山市連合町内会総会

(平成12年5月23日)

- ・平成11年度事業報告
- ・決算の承認、平成12年度事業計画・予算の承認
- (二) 新役員の選出

- 常任理事 横山 洋(旭東中)
- 会計 佐藤正信(岡輝中)
- 理事 渡辺清吉(福田中)
- 理事 片山 晋(桑田中)

▼総会以後選出

- 常任理事 塩飽幹廣(操南中)
- 理事 長江勘次郎(操山中)
- 理事 黒田智昭(富山中)
- 理事 藤原敏夫(興除中)
- 理事 三宅 茂(足守中)

(三) 規約等の改正

規約第四条役員の定数の改正等の承認

岡山市連合町内会表彰式

総会に先立ち、会長表彰状・感謝状贈呈式を行い、十五年以上単位町内会長の職にある方又はあった方二十五名及び

五年以上学区連合町内会長の職にあつて退職された方四名

の功績を顕彰しました。

永年勤続町内会長・区長等

表彰

(平成12年5月10日) 平成12年度から県知事表彰が実施されることとなり、岡山市から二十四名の方が受賞されました。

岡山市有功

表彰の受賞

- (平成12年11月3日)
- 谷田隆 (南方)
- 佐藤正信 (清輝)

の両氏が、永年に亘る岡山市発展への貢献に対し、岡山市表彰条例による有功表彰を受賞されました。

岡山市町内会長表彰状・感謝状贈呈式

(平成12年12月1日)

十五年以上学区(地区)連合町内会長の職にある方二名・二十年以上単位町内会長の職にある方五名に表彰状。五年以上単位町内会長を務め退

した。

岡山市連合町内会研修視察

(平成12年11月1日～2日)

会員六十一名が甲府市自治会連合会を訪問し、住民自治組織の活動状況等について、意見交換をし、翌日には影絵美術館、昇仙峡等を見学した。

岡山市連合町内会

新春互礼会・市政報告会

(平成13年1月10日)

ホテルニューオカヤマに於いて、萩原市長、磯村市議会議長、時枝助役等と会員六十九名が出席し、兼松会長のあいさつの後、岡山市連合町内会関係の受賞の報告及び花束贈呈があり、市長の市政報告、来賓あいさつの後、懇談した。



佐藤正信氏 谷田隆氏



岡山県自治会連合会の動き

□岡山県自治会連合会総会

(平成12年9月5日)

建部町文化センターに於いて岡山市十名、建部町四名、富村三名の役員と事務局職員の参加により開催。また金光町、勝央町、倉敷市児島の自治会連合会代表四名がオブザーバーとして参加した。

総会後、研究協議会を開催し、各自治会活動の現状と課題を発表。岡山県自治会連合会(以下「県自連」)の組織拡大・充実を重点目標に採択。次回開催地を富村に決定。

□県自連加入促進活動

▼4月 県内七十八市町村自治会連合会組織実態調査。

▼6月 早島町自治会等連合会訪問。児島自治会連合会来庁。山陽町区長会・町内会連合会訪問。

▼7月 佐伯町区長会、勝央町区長会訪問。

▼8月 金光町区長会訪問。

▼10月 英田町区長会訪問。

▼11月 美作町区長会訪問。

□岡山県知事との懇談会

(平成13年2月7日)

県自連正副会長が、県庁を訪問し約一時間に亘り、石井知事と懇談した。

▼地方分権時代の基盤となる住民自治の発展のため、住民自治組織との対話・協働関係の形成について合意された。

▼県自連役員との定期的懇談会の設置を確約された。

▼県自連組織の拡大について県行政の支援を確約された。

▼全国自治会連合会岡山大会開催に全面協力を確約された。

▼県知事表彰制度は自治会顕彰の証しとしての継続を確約された。

□県自連先進地視察研修

兼松会長、近藤理事、犬飼理事が三重県自治会連合会(久居市)を視察。加入促進策及び連合会事業について意見交換を行った。



石井知事を囲んで懇談する県自連正副会長

兼松会長が

自治大臣感謝状受賞

平成12年11月6日自治省において兼松会長が、地縁による団体功労者として、自治大臣(現在総務大臣)感謝状を受賞されました。式では全国三十名の受賞者を代表して感謝状の受賞及び謝辞を述べられました。この表彰は平成11年度から創設され、岡山市では初めての受賞者となります。

全国自治会連合会の動き

□全国大会

平成12年10月13日に全国自治会連合会(以下「全自連」)滋賀大会が大津市で開催されました。岡山県自連から近藤理事・犬飼理事が全自連会長表彰を受賞されました。

□全自連加入促進活動

現在二十七都道府県が加入しており、中四国では愛媛県、徳島県、高知県、島根県が未加入です。兼松会長自ら新居



受賞者を代表して謝辞を述べる兼松会長

浜市、松江市、鳴門市、高知市その他の主要都市を訪問。

自治会連合組織及び行政機関と会談し、県連合の結成と全自連への加入を呼びかけ、連携と交流を行いました。

□全自連中四国

ブロック会議の開催

(平成12年11月21日)

全自連加入五県の県連代表者・事務局による第一回会議を開催しました。

全自連の活動方針に対する8協議、共通課題である県及び市町村行政との関係改善等活発な議論を行いました。今会議を設立会議とし、毎年一回各県持ち回りで開催することに決定しました。

編集後記

去る2月28日に編集会議を終え、今回は増頁し内容を充実させ、第三号を発行する運びとなりました。ご投稿いただいた皆様ありがとうございました。事務局